



<メッセージ>

岐阜の木のチカラで地方創生

木々たちは守り続けてきた。何十、何百、何千年と。土に根を張り、森を創り、ある時は災害から、またある時は大気汚染から。私たちを守っているのはいつも彼らだった。

だから次はあなたの番だ。

岐阜の木を使い家を建てよう。そしてまた木を植え木を育てよう。その循環が私たちの暮らしを、安全を、健康を作っていくのだから。地位の森を使うこと、それは私たちの暮らしを守ること。

夜明け前の漆黒の闇から光あふれる世界へのほんの一瞬青く染まる幻想の森。

……わが郷土、岐阜にはこんな森がたくさん存在します。森と人が共生できる循環型の世界を目指そう。脱炭素化と人々の健康を切り口に、岐阜の木で

<取り組み>

社会課題に対する
ぎふの木ネット
の取り組み

地震対策 | **省エネ**
運べる家 | フォーラム開催 | 住宅開発

応急仮設住宅や店舗にも
県内の学術機関と連携し、各種研究を進めており、省エネ性能が高く災害に強い住宅開発をしています。

DXの推進
モクタウンの運営

詳しくはこちら
AI技術を取り入れたデジタル住宅展示場「モクタウン」を運営し、県産材活用のために、各種情報を発信します。県産材を使う地域のビルダーを紹介。

空き家対策
グリーンリノベ部会

Before
After
急増する空き家に対し「空き家にならない」「空き家を活用」できる取り組みを考えています。

職人不足
だいくエイド

必要な時に必要な職人を供給できるネットワークを作っています。

健康寿命の伸長
眠りの研究

木質空間と眠りの研究、木の香りが体に与える影響を研究しています。

カーボンニュートラル
都市の木質化 | サプライチェーン強化

サプライチェーンを構築し、都市部の企業の木質化事例を増やしています。

地方創生
異業種とのタイアップ

木と異業種を組み合わせた新しい付加価値（ブランド）の創出を行っています。



フォーラムの内容

11月29日（金） ぎふの木ネットフォーラムを開催いたしました。今年に2回ほど全会員対象のイベントを行っております。今回は来年度4月より大きく変わる省エネ基準の義務化について森林文化アカデミーの辻先生による特別セミナーを実施しました。



更にセミナーの内容を取り入れた、高性能な住宅モデル（ぎふの木ネットモデル）と使用資材の詳細についてもご案内いたしました。このモデルを参考にさせていただきビルダーさん独自のモデルを作っていただきたいと思います。そうした事へのお手伝いする事が私たちのミッションでもあります。



会員表彰

今回の新しい取り組みとして会員表彰も行いました。受賞者には賞状と県産材のナラで作った記念の盾を贈呈しました。

県産材を最も多く使用されたビルダーさんやVR展示場で情報を一番多く発信していただいた工務店さん等多くのジャンルで表彰させて頂きました。

また本年専門部会としてグリーンリノベ部会を発足させましたが、半年ほどの間に多くの講習を実施し知識レベルの向上と共に、夏に北海道への現場視察も実施し、具体的な技術レベルの向上も実現されました。

第1期生の方々は未知の海へ飛び込むファーストペンギンの様にチャレンジ精神と卓越した行動力を発揮されました。全員最終試験にも合格され、見事リノベソムリエとしての称号も獲得されましたことについて改めて敬服の意を表します。

今後2期生の募集もほどなく始まりますが、多くの方がこうした資格のもとで

大型リノベや空き家の改修などの工事に取り組めば、社会課題である空き家問題に対し当協議会も一歩を踏み出せるわけです。



次は非住宅部会

今後の新設着工は一進一退を繰り返しながらも現在の80万戸時代から60万戸時代へ推移していくと考えるべきです。人口1億2000万人の国民に対し6,000万戸の住宅ストック。2人に1つの数の住まいが存在することになります。

空き家もつい少し前まで850万戸が今や900万戸越え。2033年、あと10年以内に2,000万戸越えの予測があります。つまりリノベや空き家改修などが大きな需要を生み出します。今から先を見据えた方々による新たなビジネスモデルこそが社会課題の解決と新ビジネスの創造の先行者利益です。スピードと行動力が両立を可能とさせるキーワードです。

先に大きく伸びる分野として脱炭素化やSDGsの流れの中で都市の木質化の流れで、構造は木と鉄やコンクリートといったハイブリッド型、また内装については木材を主として使われる物件が増えてきています。時代の流れを先回りして新たなビジネスを創出しようではありませんか。

近日、非住宅部会をスタートさせます。新しいビジネスモデルと一緒にチャレンジしませんか。

新たなる進化・・・今回のフォーラムより

今回フォーラムの基調講演として、岐阜県立森林文化アカデミーの辻先生にお話しいただきました。

心地よいエコな住まい のつくり方

ぜんぶ
エコ
ハウ



心地よいエコな住まいの作り方

これがテーマです

現在のエコハウスは断熱の性能のみで評価されています。ガチガチの性能住宅より、適度な温度ムラはむしろ心地よさといった発想で、完璧な快適さより心地よさを目指すべきとの事でした。トータル的な心地よさを求める条件として景観（地形や眺望、樹木、河川）や自然（日当たり、風向き、植物）そして人文（街並み、石や土などの素材・電気・上下水などインフラ、治安）などの要素も含めるべきかと。なるほどと感心しました。



パッシブデザインのすすめ

先生はパッシブデザインのすすめとして暖房機の日射熱取得も大切だとのこと意見
つまり

パッシブデザイン

設備デザイン

建築デザイン
(パッシブな
建物)

暮らし方
(アクティブ
な暮らし)



高効率設備
創エネ



心地よい
エコな住まい

省エネ性能の底上げ		建築物省エネ法		
全ての新築住宅・非住宅に省エネ基準適合を義務付け				
※ 建築確認の中で、構造安全規制等の適合性審査と一体的に実施				
※ 中小工務店や審査側の体制整備等に配慮して十分な準備期間を確保しつつ、2025年度までに施行する				
大規模	現行		改正	
	非住宅	住宅	非住宅	住宅
	適合義務	届出義務	適合義務	適合義務

2,000㎡以上	2017.4~	適合義務	届出義務	2017.4~	適合義務
中規模	2021.4~	適合義務		2021.4~	適合義務
300㎡未満 小規模		説明義務	説明義務	適合義務	適合義務

温熱性能はどこまで目指す

今回のフォーラムのポイントです。

断熱等級 7	HEAT20G3相当	
6	HEAT20G2相当	
5	ZEH基準	2030年義務化
4	省エネ基準	2020年義務化

結論 数十年先を見据えた性能を確保する観点から等級6を目指すべきとの考え

また高断熱+日射熱取得で暖房エネルギーを半減という点も取り入れるべき
 ・・・・約90分のご講演時間が大変短く感じました。



<今回フォーラム参加者の声>

フォーラムにて参加者にアンケートをとりましたが、辻先生のご講演に対して、大変高い評価を頂きました。

- 資料がわかり易く内容が理解しやすかった
- 人の心地よい住まいの考え方が変わりました。断熱等級のことも良く分かりました。
- ものすごくわかりやすく、勉強になりました
- 様々な制度がでてくるなかで、イラストふくめての説明でわかりやすかった。

建てる家での目標・理想を見据えて作っていく中で快適な家・生活で作ることができる事が理解できました。

- エネルギーを数値化し、提案につなげていくことで、お客様もイメージが付きやすくお客様の為の提案が可能で素晴らしいと思いました。
- 断熱についてこれまでは、断熱材を入れるだけで問題は解決すると思っていたが、実際には窓も大きくするなど、日中の日差しを大事になってくると知り、窓を南側で大きくすることが大切だと知った。